

小泉改革の最大の抵抗勢力

それは日本共産党。

「構造改革」に反対し 日本経済の沈没ねらう

国民から圧倒的支持を受ける小泉首相は、日本再生をめざして抜本的な「構造改革」に取り組もうとしています。ところがそれを阻止しようとする抵抗勢力があります。「抵抗勢力

不 良債権を早く処理しないと、いつまで経っても日本経済はよくなりません。そんな小泉首相の決意に対して、共産党は「構造改革」の名による大企業・大銀行応援と国民犠牲の道(志位委員長)とか「不況で苦しむ中小企業を倒産に追い込む銀行の運動を提唱していることと同じ」「絵に描いた餅」(『赤旗』五月二十

五日)などと、こじつけ論理で猛反対しています。不破哲三議長は「日本共産党でこそ小泉流の『改革』に決できる」(五月二十二日)福岡県下での演説会)と、共産党が最大の抵抗勢力であることを自ら告白しています。



共産党は小泉政権の構造内閣が失敗して経済が壊滅すれば、自分たちに勝機が訪れると見ている

「族議員」どころでない 悪質な抵抗勢力

共産党は小泉首相に「構造改革」をやらめさせず、日本経済を沈没させ、共産革命の機会をつかっているのです。

小泉首相は、社会保障政策の抜本的改革めざし、その青写真をねっていますが、これにも共産党は、鉄かぶとをかぶって「強行しようとしている」と抵抗、反対しています

(『赤旗』五月二十八日)。

また、小泉首相がかねてから主張する郵政三事業の民営化論に対して共産党は「銀行の利益のためなら、大義名分を投げ捨てて庶民が不利益をこうむるうともおかまいなし」(同紙五月十九日)と、「族議員」顔負けのすり替え論で抵抗、反対しています。



驚異的な支持率の小泉政権に対し、またぞろ中身もなく「何でも反対」に固執する共産党 = 写真は国会議事堂

首相公選を唱えて憲法の改正を訴えている小泉首相に対しても共産党は「タカ派発言」とか「危険」などと、中傷し続けています。こうして見ると、改革には「なんでも反対」の共産党が浮き彫りになっていきます。小泉改革の抵抗勢力共産党は「族議員」の比ではありません。

号外
平成13(2001)年
6月
本紙=プランケット
判4頁
発行=月2回・1,15日

思想新聞

The Shiso Shimibun

発行/IFVOC
〒150-0042
東京都渋谷区宇田川町
36-6-9F
電話代表03(3496)7433
© 国際勝共連合2001

“昔の名前”で出ています。

共産党は、やっぱり独裁めざす『前衛党』

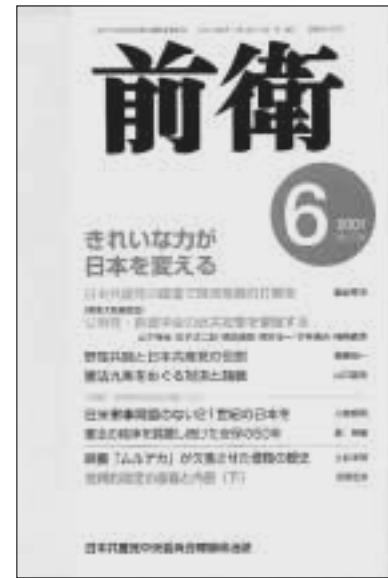
共産党は昨年十一月の党大会で党規約を改め「前衛党」との表現をなくし、これをもって「日本国民の党」などと称しています。ところが、驚いたことに党の中央機関誌の名称は「前衛」のままなのです。こ

の名称に党員が郷愁を感じているので変えなかったといえます。しかし、本当のところはやはり独裁・粛清の共産党、つまり「前衛党」だから「前衛」の名を変えられなかったのでしょう。

ロシア皇室一家を虐殺したレーニンの組織原則を堅持

共産党がそれほど執着する「前衛党」というのは何なのでしょう。それは、かつてロシアで皇帝ニコライ二世一家を虐殺して共産革命をやり遂げたレーニンが作った共産党の組織原則のことです。「党の決定に無条件に従え」などとする、秘密組織か軍事組織で見られない独裁組織体制が「民主集中制」と呼ばれた共

産党の「前衛党」の原則なのです。この「前衛党」が政権を取った後、国民の自由を奪い国全体を「収容所群島」(ノーベル賞作家ソルジェニーツイン)にしてしまい数千万人が殺されたのです。その恐るべき独裁政権を引き継ぐとして共産党の正体が、「前衛」の温存で明らかになっています。



いまだに恥ずかじげもなく『前衛』の名を掲げている共産党の機関誌

石原都知事も「共産党はハイエナ」と呼んでいます

石原都知事が国に先駆けて取り組んでいるデーゼル車規制や大銀行課税について、なんと共産党は「自分たちの成果だ」と宣伝しました。これには他党も呆れ、三月の都議会予算特別委員会で議員が「都民をだます誇大広告。石原知事はどう思うか」と質問。これに対して石原知事は次のように述べています。



自らの施策を共産党に横取りされたと憤る石原慎太郎都知事

非常に下劣な獣が。わたしは非常にそれに似ているなという感じがいたしました。こういう政党(共産党)の虚構、非常にあしき特質というものを都民の多くが知るといふことは、民主主義の健全な発展のために私は好ましいことだと思いません(毎日新聞 三月十七日)

「クリーン」が聞いて呆れる… 共産党に「公金搾取システム」!

共産党都議団の元事務局員が暴露

共産党には公金を搾取するシステムがあると元共産党都議団事務局員が証言しています。『正論』六月号で佐藤勝氏(党歴三十年以上の元党員)が「日本共産党の公金搾取システムを暴く」と題する論文を掲載、その中で「租税(公金)が党財政の収入としてがっちり組み込まれている」と述べています。公の機関(東京都)から支給される議員

報酬の「ピン撥ね」行為がシステム化されているもので、佐藤氏はその他にも東京都の公共工事などを通じた公金の党資金化システムも存在すると暴露、「まさに、公金横領の犯罪的行為」と指弾しています。共産党がいかにクリーンとはかけ離れた党であるかが分かります。甘い言葉に注意しましょう。